



## 2. 家具などの固定

家そのものの対策とともに、家具などの固定にも気を配らなければなりません。最も大きな揺れは十秒程度。この間に家具が倒れ込むか否かで、避難する際の安全性に大きな差が生まれます。

兵庫県立生活科学研究所では、およそ四百世帯を対象に、阪神・淡路大震災による家中の被害の実態を調査しました。家具や家電製品を固定していた例はほとんど見られなかったといえます。所長の酒居さんはこう話しています。「バランスの非常に悪いスリム型の家具や、段重ねの家具がたくさん転倒しています。また、食器戸棚では、開き戸タイプのものは扉が開いて、中の食器が全部飛び出して壊れてしまった、という事例がたくさんありました」。

では、家具などを固定する際のポイントを挙げてみましょう。

固定するときに注意しなければならないのが、固定する場所です。柱や壁に十分な強度がなければ効果が期待できません。

柱が壁の中で、見えない場合はどうでしょう。標準的な造りでは、間柱の間隔は四十五センチ。それを目安にするとういでしょう。固定するネジの長さや太さなどにも十分気をつけてください。二段重ねなどの家具では、上の段と下の段を必ずつないでから固定することです。

家具の中身や本棚の本が飛び出さないようにすることも大切です。観音開きの棚は扉を留め具で押さえておくこと。ガラスの部分には飛び散らないようにフィルムを張っておきましょう。

家電製品に対しても、転倒を防ぐよう工夫

します。照明器具を天井に確実につないでおくことも忘れてはなりません。冷蔵庫、大画面テレビ、大きなシャンデリアなどの下敷きになると、命を失うことも考えられます。

## 3. 防災用品の準備



阪神・淡路大震災では、地震後わずか十五分足らずのうちに、神戸市内だけでも六十件近くの火災が発生しました。

パニック的状况下では、消防だけに頼ることなく、自主的な消火活動が求められます。火災は、火が出た直後であれば消止めることが可能な場合が案外多いものです。万一のためにも、消火器やバケツなど消火用品は必ず備えておきましょう。風呂に水を貯めておくことも、いざというときにはなにかと役に立ちます。

大きな地震のときには、電気や水道といった、いわゆるライフラインが切断されます。そのための非常用品も備えておかなければなりません。

まずは飲料水。一人一日三リットルが目安